

かぜのきざし

2013 DECEMBER

風の萌

特定非営利活動法人(NPO)

在宅ケアを支える診療所・
市民全国ネットワーク機関紙

第024号

2013年12月15日

安心して子育てができ 老いても障がいがあっても 自分らしく暮らすことができる コミュニティーの創造

全国在宅ネット回新潟の集い in 新潟2013

黒岩大会長、本当にご苦労様でした!

去る9月22日、23日両日に行われた『全国の集い in 新潟 2013』(会場: 朱鷺メッセ)は成功裏に閉会いたしました。参加者数は1,868名(県内1,311名、県外557名 いずれも実行委員会からの報告より)になり、地方都市での開催としては特筆すべき規模となりました。これも黒岩大会長をはじめとした新潟大会実行委員会の皆様の周到な準備・努力と当日のスタッフ延 280名のチームワークが確実に結果を出したものとと言えます。本当にご苦労様でした。



左から、小山、吉嶺、斎藤、上村副会長



黒岩大会長



会場の新潟市朱鷺メッセコンベンションセンター

また、大会運営に関して会員の皆さんからの支援をはじめ新潟市関係者や地元新潟の実行委員、応援スタッフ、企業展示、ランチョンセミナー、専門職団体からの後援など様々な形で応援していただきましたこと感謝しきれません。100人近いシンポジストの方々からもご協力をいただきました。特に大会を通して感じたことは、人と人のつながりでした。組織を超え、

去る9月22日(日)23日(祝・月)第19回 全国の集い in 新潟2013が大盛況のうちに閉幕しました。全国から本場に沢山の方々に来ていただきました。大会2日間で1868名の参加者でした。大会事務局として事務局冥利に尽きるの一言です。大会前日までは表現できないほどの不安と期待があり事務局、運営スタッフ全員眠れない夜を過ごしました。黒岩大会長の地元というプレッシャーもありました。そして、やり遂げた後の達成感は、感無量でした。

職種を超え一人の人間として心から応援して下さい。と、この場を借りてお礼を申し上げます。

大会終了後も事務局への慰労メールが毎日のように届いています。改めて沢山の方々からの支えが成功に導く原動力になったと心から感謝いたします。本当にありがとうございます。

来年の20周年記念大会岡山大会を楽しみにしております。皆様のご多幸を祈って。



メルマガ 2013年10月号より転載

全国在宅ネット回新潟の集い in 新潟2013
余韻さめやらぬ新潟大会 大盛況のうちに閉幕

新潟大会事務局 山本 満智子

大会全てのセッションへ参加された方のおおよその人数です。どの会場もほぼ満席(一部立ち見)の状態でした。

第1日目 9月22日(日)

時間	会場	メインホール	2階 201A	201B	203+204	3階 301A	301B	302A	302B	3階 303+304	305	306+307	4階 国際会議室
8:30		開会式 9:00											
9:30		開会式 9:30											
10:00		開会式 10:00											
10:15		開会式 10:15											
11:00		開会式 11:00											
12:00		開会式 12:00											
12:20		開会式 12:20											
13:20		開会式 13:20											
13:30		開会式 13:30											
14:30		開会式 14:30											
15:30		開会式 15:30											
16:30		開会式 16:30											
17:30		開会式 17:30											
18:15		開会式 18:15											
19:45		開会式 19:45											

ポスター
展示

950人

270人

500人

50人

44人

139人

61人

31人

103人

50人

40人

22人

18人

28人

第2日目 9月23日(月・祝)

時間	会場	メインホール	2階 201A	201B	203+204	3階 301A	301B	302A	302B	3階 303+304	305	306+307	4階 国際会議室
8:00		開会式 8:00											
9:00		開会式 9:00											
10:00		開会式 10:00											
11:00		開会式 11:00											
11:35		開会式 11:35											
11:50		開会式 11:50											
12:50		開会式 12:50											
13:00		開会式 13:00											
15:30		開会式 15:30											
15:40		開会式 15:40											
16:00		開会式 16:00											

ポスター
展示

133人

700人

55人

94人

80人

100人

98人

110人

119人

101人

21人

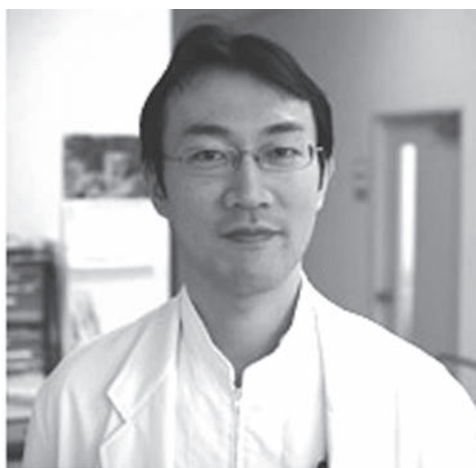
80人

163人

「全国の集い in 北海道2015」に向けて

理事就任と2015年大会の抱負

医療法人 北海道家庭医療学センター 理事長 草場 鉄周



このたび理事に就任いたしました草場鉄周と申します。福岡にて生まれ育ち、京都大学を経て、家庭医を志して北海道の地域医療に従事し、早15年となります。そもそも医療とは病気だけを診ていればいいのか、という疑問から始まり、患者の心と体を幅広い視点から診る医師としての家庭医にあこがれて室蘭での研修をスタートしたのですが、医

師1年目の時にその視点の原点を感じたのがまさに在宅ケアでした。先輩医師とチームを組んで行う月2回の訪問診療は、医師としての経験が未熟であるがゆえに必死に全身で取り組んだわけですが、最も印象深かったのは患者の自信に満ちた誇り高い表情でした。診療所で診察するときは「お客様」としてやや縮こまっているような気がする患者さんが、自らのホームグラウンドでゆったりと「主人」として我々を迎えてくれる構図。その構図そのものが、患者さんの人格や生活を見失いがちな現代医療に対するアンチテーゼだなど直感的に認識した覚えがあります。

そして15年が経ち、

2025年問題という表現に集約される多死社会到来を踏まえた解決策の一つとしてこの在宅医療が位置づけられ、いつからか診療報酬での手厚い評価がなされるようになりました。

見渡せば在宅専門医の増加、在宅系学会の設立と在宅ケアを取り巻く風景は一変しています。一家庭医としては、地域の診療所の外来で診られてきた患者が、年をとり障害を抱え、通院が難しくなったときに、自然にその診療所の在宅医療を受け、穏やかな最後の時期を過ごすことができると日本になればと期待をしています。そのためには、診療所の医療とは何かという本質的で未解決の課題に日本全体で取り組むこと、そしてその担い手をどう考えるかというテーマの検討が必要です。家庭医としての15年の診療、そして家庭医を40名近く養成してきた実績、そしてプライマリ・ケアについて全国の方と議論してきた経験を活かし、ネットワークの皆様とより良い在宅ケアを考えていきたい

と思っております。



北海道で2015年の大会を開催させて頂くにあたってはまさにこうした問題意識の中で在宅の担い手としての医師の在り方にまずスポットをあてたいと思います。2017年度より開始される新たな専門医制度では全ての医師が初期臨床研修終了後に基本領域の専門医資格を取得することが義務づけられます。そして、内科、外科、小児科など各領域の専門医資格を維持するためには相應の診療経験の積み重ねが必要となり、比較的緩やかな現状の専門医制度からは大きく形を変える予定です。現在専門医制度には位置づけられていない在宅の医師のアイデンティティは今後どのように変わるのか、在宅を目指す医師のキャリアデザインはどうなるのか、新制度を見越した議論は待ったなしです。また、在宅を担う多職種それぞれの在り方も変容しつつあります。養成の決まった特定看護師(NP)の役割と訪問看護師と



の関係性、薬剤師の在宅ケアにおける役割の探索など、これからは量よりも質の議論がメインとなるでしょう。この大会では各地の取り組みを共有し学び合う視点を基盤に、今後想定される社会や制度の変化の中で我々がどのような取り組みを展開すべきなのかを未来志向で考えていきたいと思っています。是非皆様方の自由なアイデアとサポートをお願いいたします。来て良かったと思える素晴らしい大会を共に作って参りましょう！

前号に引き続き、今期理事になられた小林るつ子様(メルマガ2013/12号にも掲載)が理事長をされている『玩具福祉学会』の当会における活動事例をご紹介します。昨年、高知で行われた全国大会の大会長を務められた福田理事の施設での事例を紹介させていただきます。

玩具療法(トイセラピー)について

大和会グループ(医療法人大和会・社会福祉法人秦ダイヤライフ福祉会)

理事長 福田 善晴

全国の集い in 高知をきっかけに、小林るつ子さんをお招きして、実際にトイセラピーについて経験させていただきました。そこでは高齢者の方々がおもちゃに触れ、想いもしなかった笑いや表情の和みを得られました。皆さんの嗜好や性格も垣間見ることが出来た一瞬でした。

ところで、最近緩和ケアの世界では、ナノラティブアクションという言葉が良く使われています。私なりに、その人の想い出であったり、希望や嗜好・趣味など、あらゆる生きるための心の力だととらえています。まさに、玩具療法で診ることの出来た表情は、ナノラティブそのものであったように思われました。近い将来、EBM(エビデンスに基づいた治療)はNBIM(ナノラティブアクションに基づいた治療)に変わってくるものと思われまます。玩具療法の素晴らしさを、実感しております。



私達の働く特別養護老人ホームあざみの里は高知市北部地区にあり、周辺は住宅街で静かな場所に位置しており、平成14年4月四国初のユニット方式を取り入れた施設として開設し、12年目を迎えました。平均介護度4.58、平均年齢84.20歳の80名の方が生活されております。

特別養護老人ホームあざみの里
機能訓練指導員 栗原梨江
生活相談員 松井彩音

介護現場における 玩具の活用事例

当施設では各ユニットで行うレクリエーションやあざみの里全体で行うクラブとは別に、ケアプランに関わる専門職が中心となり、運動・音楽・鑑賞の3つの分野に分けて自己選択できるレクリエーションを実施しております。これまで、レクリエーションに関する研修にも参加しましたが、比較的自立度の高い方を対象としたものが多く、特養では取り入れる事が出来るものは僅かでした。レクリエーションを始めて数ヶ月後の今年2月、東京より玩具福祉学会理事長の小林るつ子先生をお招きし、玩具療法の研修会を開催しました。小林先生は昨年当法人の福田理事長が大会長を務めた、「NPO在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク全国の集い in 高知2012」の際、セミナーの講師をして頂いたことをきっかけに、今回あざみの里で2日間の研修会が実現しました。重度化する特養でのレクリエーションを試行錯誤している中で、小林先生の研修会は玩具療法を取り入れるきっかけとなりました。昨年までは施設内にほとんど使われず数える程しかなかった玩

新規購読のご案内

高齢者の住まいと介護・医療を考える

週刊 高齢者住宅新聞

～2014年 新年特大号(1月1日・8日合併号)～主な特集内容～

- 社会保障制度改革議論総まとめ
- 介護編◎一定所得以上の介護負担2割に ◎要支援者、自治体事業に移管
- ◎サ付き住宅に住所地特例適用 など
- 医療編◎70～74歳以上の医療費負担2割へ
- ◎高度急性、一般急性、回復期、慢性期 病床再編の行方
- ◎在宅医療 機能強化型診療所のハードル上げ など
- 在宅患者紹介ビジネスの是非 紹介ビジネスの概要、施設側・医療機関側の見解
- サ付き住宅が供給過剰?! サービス内容を徹底究明
- 居宅介護事業ランキング 訪問介護、デイサービス、訪問看護、ショートステイなど

高齢者住宅新聞
媒体概要

- 発行形態 定期購読・タブロイド版(20ページ～)
毎週水曜日発行(月4回)
- 主要読者層 施設運営会社、介護サービス会社、医療法人、社会福祉法人、人材サービス、福祉・介護施設、不動産・建設会社、土地所有者、設備機器 建材、システム関連、金融関連、自治体関係

年間購読料 21,000円(税込・送料別)

TEL **03-3543-6852** ※高齢者住宅新聞購読とご用金のう、お名前、会社名、ご連絡先、ご住所をお知らせ下さい。

ホームページ <http://koureisha-jutaku.com> [新聞購読申込](#)

メール info@koureisha-jutaku.com

FAX **03-3543-6853** 下記に必要事項をご記入の上FAX下さい。

購読お申し込みは
右記の
方法で
ください

株式会社高齢者住宅新聞社 〒104-0061 東京都中央区銀座8-12-15
TEL:03-3543-6852 FAX:03-3543-6853 <http://www.koureisha-jutaku.com>

具でしたが、現在は各ユニットで選んで遊べる程のたくさんさんの玩具があります。認知症状や身体機能レベルにより皆さんに使用していただくのは難しいため、サービス担当者会議で話し合いながら対象者を決め、玩具も各ユニットの職員がおもちゃ屋さんに出向き、自分たちで実際に触り、その方に合った玩具を選びました。

ここで事例を紹介させていただきます。約半年前に病院からあざみの里に入居された女性です。認知症がほとんどなく脳梗塞後遺症による言語障害のため思うように気持ちを表すことが出来ないためか、他者との交流も避けるようになってきておりました。レクリエーションなどホールへお誘いするものの居室からなかなか出てきてもらえなかったため、自席でできることに着目して玩具を探しました。

ご家族から得た情報をもとに多職種でアセスメントを行い、本人の性格と身体状態などを考慮し、人形などで遊ぶよりも数字盤やパズルなど達成感の得られる玩具を選びました。

食事終了後に1~100まで



の数字盤を用意し、「頭の体操がてら一緒にやってみませんか?」とお誘いするも始めたころは表情も険しく、早く終わらせて横になりたいという感じでした。皆さんがテレビを見たり、おやつを食べたりして過ごされているホールに出て、楽しみを持った生活をしていただけたらなという思いで、できる限り毎朝数字盤を用意しお誘いしてみました。起きてくるのですら苦痛の表情でしたが、数字盤を用意すると「今日はないかと思いいったけど今日もやるがやね。」と少しはにかみながら言われたり、「少しずつ終わる時間

が早くなってきましたね。」と声をかけると「そうかね? ようようやりゆう。」と照れたような表情が見られるようになりました。リハビリ室など特別な場所ではなく、普段お食事をされている自席で行なうため、ユニットの職員から声をかけられることも多くなり、職員とのコミュニケーションをとる機会も増えてきました。また、職員に声をかけるときは心気的な訴えがほとんどでいつも険しい表情でしたが、表情も和やかになり職員との会話に笑顔が見られることが増えてきました。午前の離床時間は数字盤を行なうことで、離床している時間のコミュニケーションツールにもなり、きっかけ作りにもなりました。離床時間が増えたことで、玩具療法だけでなく、集団訓練やレクリエーション活動、移動スローパーでの買い物の参加ができるようになったこと等、入居者様にとっての楽しみが広がってきたように思います。

その他にも子育てをし

ていた時を思い出すかのように女の子の人形を抱いてあやしたり、鳴き声をあげる犬のぬいぐるみに話しかけ飼っていた犬を可愛がるように頭をなでたりと、その方のお家で過ごされていたときの様子が眼に浮かんできます。お喋りができる動物の人形に話しかけている時のご様子は、職員やご家族様とのコミュニケーションで見せてくださる表情とはまた違った表情を見ることが出来ます。

当法人では平成18年より約120名の方々の看取りをさせていただいています。今までは自立度が比較的高く意思疎通もとれる方に対して玩具療法を対象とすることが多かったですが、玩具療法を通して人生の最後まで楽しみを持った生活をしていただけるような支援をしていきたいと思えます。生活相談員、介護支援専門員、理学療法士、看護師、介護士と多職種が揃っていることを強みに、様々な身体機能・認知レベルの方にも楽しんでいただけるよう遊び方の工夫をし、今後も研修等に参加し特養での玩具療法の充実を図りたいです。

エレクトロニクスで病魔に挑戦

NIHON KOHDEN

わたしたちが、夢の実現をお手伝いいたします。

すべては、医院開業の成功のために。

61A-0294

60 おかげさまで創立60周年
ヘルスケアの未来を拓く

〒161-8560 東京都新宿区西落合1-31-4
創立/1951年8月
事業内容/医用電子機器の開発・製造・販売、医院開業支援

日本光電 医院開業支援 **検索**

<http://www.nihonkohden.co.jp/iryo/practice/>
E-mail:Kaigy@mb8.nkc.co.jp

Mail Magazine

今回は「風の萌」より会員紹介のコラムの2013.8～10月号を掲載いたしました。

この記事は毎月メールマガジンの記事として皆様に配布されている記事の転載版です。(スタイル等は一部変更しています。)メールマガジンでの配信はもちろん「多くの人に」、「迅速な」、配信が目的で、メールの特徴を発揮出来るものですが、現実としてメール配信されている数は「多くの人に」というにはまだまだ充実を計る必要があります。

事務局ニュース2013・8

医師・法人会員活動紹介

「光銭歯科医院」

光銭歯科医院 光銭 裕二

函館市は、観光と漁業の町でその夜景は世界三大夜景ともいわれ、毎年多くの観光客で賑わっています。しかしその一方、平成16年に近隣町村と合併して人口30万人を超えて以来、毎年3000人近くが減少し平成25年6月現在の人口は約27万5000人で高齢者率も29・3%と高齢化が急速に進んでいる町でもあります。

この町に歯科医院を開業し

て29年になります。幼稚園に通っていた子供たちが親になって子供を見せに來たり、同年代の方がお孫さんと来院するなど町の歯医者さんとしての喜びを感じる一方で、元氣だった方が不幸にも障害をもって通院できなくなるケースも経験してきました。このような時、担当していた動ける歯科医師が伺い、可能な限りの歯科医療サービスを在宅



で提供することは、歯科医療に携わる者として基本的なスタンスだと考え歯科訪問診療に今まで携わって來ました。

また開業当初の訪問診療では義歯の作成や調整、痛みに対する処置がほとんどでしたが、今では口腔機能や栄養などの点から「食べることの障害」に目が向けられるようになりました。さらに最近ではエンドオブライフケアでの口腔ケアなど、歯科医療の在り方も求められています。

当院のスタッフは歯科医師1名、歯科衛生士3名、歯科助手1名、言語聴覚士(パート)1名で、訪問診療は毎週木曜日の午後に行っています。本年7月の訪問先は居宅15名、ホスピス病棟6名、介護病棟5名、その他3名(グループホームなど)でした。また訪問診療は、口腔ケアだけが必要な患者さんには歯科衛生士2名で、治療も必要な患者さんには私と歯科衛生士1名で、さらに初めて訪問する方や全身状態に問題のある方、処置内容によっては

摂食回復支援食



摂食回復支援食とは… 通常の食事を取ることが難しい方の食べる機能と栄養摂取を支援するための食事です。



お問い合わせ・資料請求の連絡先



イーエヌ大塚製薬株式会社

東京都千代田区富士見2-7-2 ステージビルディング13階

お問い合わせ窓口

TEL.03-3515-0170

月曜～金曜 9時～17時(祝祭日、年末年始、お盆を除く)



NPO在宅ケアのメンバーの皆さん初めまして、私は北海道北見市で歯科医院を開業

多職種連携を目指して 歩み始めました

北海道北見市

「松浦歯科医院」

医師・法人会員活動紹介

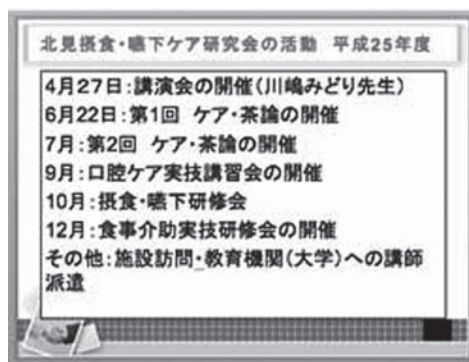
事務局ニュース2013.9

4名で対応します。
最近歯科医療でも最先端医療が先進医療として認められ、目覚ましい進歩を遂げています。一方社会の高齢化が急速に進む中では、要介護高齢者の方が安心して住み慣れた地域で生活していただくために歯科医療を通して支援し

ていくことも歯科の大きな役割であり、この点から私たちは超高齢化社会の最前線医療に向き合っていると考えています。

光銭歯科医院
〒041-0851
北海道函館市本通2-31-16
TEL: 0138-56-4141
FAX: 0138-56-4154
E-mail: vchkd@titan.ocn.ne.jp

しております、松浦歯科医院の松浦信一です。北見市はオホーツク圏で人口12万の中堅都市であります。その中で、日頃歯科診療および訪問歯科診療に従事させていただいております。
訪問歯科診療の臨床現場ではいろいろなことを経験させていただきました。特に多職種の方々との連携の必要性は強く感じました。そこで地元の中で少しずつ仲間を集めて活動を始めました(H22)北見口腔ケア研究会。いろいろ



な問題に関して共に相談しながら活動してあげてしまいましたが、その後の暗礁に乗り上げてしまいました。特にリハビリのスタッフが勤務している病院から活動の制約を受けたのです。それだけでなく地域域の少ない医療資源です。何とか地域のために有効に活用できないか、あれこれと模索しました。各地には多職種と上手に連携しているところが多く存在するのにもかかわらず、どうしてこの地域はうまくいかないのだろうか？ 悩んだ日もありました。そんなとき背中を押してくださった方がいらっしました。北海道保険医会オホーツク支部の先生方です。医科歯科合併してい

る同会の特に医科側の先生方から後押しをいただきました。私にとってはとても心強く当時の濱津和雄支部長先生には、大変お世話になり感謝しております。以上の経緯を経て、北海道保険医会オホーツク支部の傘下として各団体にこの研究会の構成メンバー推薦していただく形で、北見摂食嚥下ケア研究会として活動できるようにになりました。(上図参照といってもまだまだ未熟な部

事務局ニュース2013.10

医師・法人会員活動紹介

「医療法人ゆづの森」

愛媛県松山市 医療法人ゆづの森理事長 永井 康徳

【自己紹介】

愛媛大学医学部を卒業後、自治医科大学地域医療学教室を経て、愛媛県南予の国保俵津診療所にて僻地医療に従事しました。子供からお年寄りまで地域を丸ごと診る地域医療に魅せられながら、在宅医療に特化しなければできないことがありと考え、平成8年に愛媛県松山市で在宅専門の

分が多々ありますが、地域の中で一人でも多く仲間を作り、情報を共有化し、一緒に問題を解決すべき取り組みしております。今後はメンバーの皆様方を見習いながら、地域の仲間と協働していけるよう努力して参りたいと思います。どうぞよろしく願います。

松浦歯科医院
〒090-0818
北海道北見市本町2丁目5-2
TEL: 0157-61-8100
FAX: 0157-26-4423
E-mail: shin-1@ac.wakwak.com

たんぽぽクリニックを開業しました。たんぽぽクリニックは開業当初は医師一人から始めましたが、現在は常勤医師8人体制で情報の共有を行いつつながら、グループ診療を行っています。24時間365日安心して患者様が在宅療養を継続できるように、必要な時に必要なだけ訪問できる体制を医療従事者が疲弊しないよう

【理事就任の抱負】
在宅医療はこれまで大都市から普及していく傾向にあり、地方や僻地では、地域医療の

にシステムで解決することを目指しています。
平成24年には市町村合併の余波などの影響で廃止されることが決定した西予市立国保俵津診療所を市から民間委譲して、運営を引き継ぎました。松山市の在宅専門クリニックと僻地診療所でのWEB会議を利用した多職種・多地点の全体ミーティング、複数医師の交代制での循環型地域医療、僻地でもあえて積極的に展開する在宅医療、院外調剤薬局の活用などで人口1200人と過疎化の進む僻地での地域再生プロジェクトを行っています。



医療法人 ゆうの森 たんぽクリニック
〒791-8056
愛媛県松山市別府町44-1
TEL: 089-911-6333
FAX: 089-911-6334
E-mail: popo@tanpopo-clinic.com

疲弊と相まって、多くの地域が在宅医療が未開拓の地域となっています。今後、大都市で起こってくる団塊世代の高齢化により、高齢者や要介護者の療養場所がなくなる医療クライシス、地方での地域医療や救急医療の疲弊、僻地の無医地区化、被災地の医療復興などを解決していくためには、すべての地域で在宅医療が鍵となるのではないかと考えています。
多死社会を迎え、様々な困難な課題の解決の鍵となる在宅医療をさらに普及させるため、医療従事者だけでなく、一般の方にもわかりやすく伝えていく様々な工夫が必要だと考え、自分たちにできることを一つ一つ実行していきたいと考えています。皆様と協力して、一歩でも前に進んでいけるよう努力していきたいと考えています。どうかよろしくお願い申し上げます。

NPO 在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク 第20回全国の集い in 岡山 2014 プレ大会

日時 平成26年1月19日(日)

会場 AP 東京 (八重洲通り)
東京都中央区京橋 1-10-7
KPP 八重洲ビル 13 階 A ルーム

内容

基調講演 13:10 ~ 14:10

●講師 田中 滋氏(慶應義塾大学大学院 教授)
(座長) 苛原 実氏(医療法人社団実幸会理事長)
演題 『地方包括ケアの目指すもの』(仮題)

シンポジウム 14:20 ~ 16:40

テーマ 『地域包括ケアの進め方』

●司会 畑 恒士氏(医療法人あいち診療会理事長)

主催／NPO 在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク
申込み・お問合せ先／いらはら診療所 TEL 047-347-2231 (浅沼・小池)

参加費

●会 員 無料
●非会員 3,000 円

※会員⇨在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク会員
※定員 100 名になり次第、締め切らせていただきますので、お早めにお申込みください。

【会場案内図】



風の萌

2013年12月15日発行(第024号)

頒 価: 1 部 50 円 会員は無料

◆ 発行 特定非営利活動法人(NPO)
在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク
TEL: 052-848-8800 FAX: 052-848-8801
http://www.home-care.ne.jp/net/ E-mail: zenkokonet@home-care.ne.jp
〒458-0007 愛知県名古屋市中区栄山3-119 カーサフクシマC-32号
◆ 編集「風の萌」編集委員

∞ ∞ ∞ 編集後記 ∞ ∞ ∞

2013 年もあと少しになりました。
風邪などひかぬようお体に気を付けて下さい。
来年度も東京事務局一同より一層頑張ります。
会員の皆様も良いお年をお迎えください。
(東京事務局／犬童)